

二年学年だより

No. 5

9月号

令和8年9月1日

204 山口貴士・勝木裕子

「英語だけができて…」

ふとSNSを見ていると「コスパが悪い学部ランキング」に外国語学部（英語系）が第10位にランクしていました。そこには10位の理由として「英語だけでは武器になりにくい」とのコメントが。

皆さんはどう思いますか？このSNSはどこ誰が作成したのか、ランキングの根拠も明確でなく信憑性はわかりませんが、私がこれを初めて見た時、「その通り！！」と思いました。「英語は大事」とよく言われ、否定はしませんが、AIの急速な発展に伴い「英語だけ」ができる人材はもう求められないでしょう。英語は掛け算です。英語に何かを掛け合わせて初めて武器になる時代に皆さんは生きています。「英語×看護」「英語×テクノロジー」「英語×観光」「英語×化学」など、英語にあなたの武器を掛け合わせてみてください。そうすることで、あなたの専門性は広がり方そのものが変わります。英語は単なる言語ではなく、あなたの知識や経験を別の領域へ橋渡しするための変換装置になります。英語が使えることで、あなたの強みはより多くの場面で活かされ、より多くの人に届き、より多くの価値を生み出すようになります。

英語が話せる日本人はたくさんいます。「英語が話せるから英語系に進もう」といった考え方はもう古い！外国語学部以外の学生で英語が話せ、留学もし、高い語学力を持つ人はたくさんいます。そのような学生は、例えば経済学部の学生であれば「経済×英語」という掛け算をすることで、英語を使って経済的データを読み解く力や市場を分析する力を、より広い場面で発揮できるようになります。英語は経済学を「伝わる知識」に変え、議論の幅を一気に広げてくれます。しかし、他学問の知識がなく英語しかできないのであれば、それはAIに取って代わられてもおかしくありません。英語を専門に勉強していない人でも、AIに指示をすると素晴らしい英語に直してくれたり、わかりやすい日本語に直してくれたり、（表面上は）英語に苦労しません。では、本当に英語しか武器がない人（または勝手にそう思っている人）はどうすればいいのか — 一つには、AIにも負けない英語の超専門家になることでしょう。「AIに負けない英語」、「超専門家」とは何か、ぜひ自分で考えてみてください。そして、思ったことを長期にわたって実践・試行錯誤（trial and error）してみてください。

（204 担任）

「人それぞれ×働き方＝それぞれの生き方」

今年度の修学旅行で、私はシンガポールを訪れました。そこで、さまざまな職業の方と出会い、仕事に対する考え方を聞くことができました。たとえば、シンガポール大学で特任教授を務める日本人の先生は、以前シリコンバレーで働いていたそうです。「ゼロから物事を作りたい」という思いから八回も転職を重ね、今では地域経済の活性化について学生に教えていると話してくださいました。

日本から同行してくださった添乗員さんは、元々留学コンサルタントとして働いていましたが、「添乗員をやってみたい」という気持ちから転職されたそうです。また、アシスタント添乗員さんは社内資格の取得を目指し、実習のために今回の修学旅行に参加されていました。どちらも三十歳前後で、仕事に対する前向きな姿勢が印象的でした。

さらに、現地の日本人添乗員さんは六十歳くらいの方で、シンガポールの街にとっても詳しく、素晴らしいガイドをしてくださいました。もともとは日本で働いていたそうですが、「日本では年齢で採用されない。でもシンガポールでは経験を評価してくれる」と言い、思い切って移住されたそうです。その決断力に驚くと同時に、もし自分だったらどうするだろう、と考えさせられました。同時に、修学旅行で出会った人たちから話を聞く中で、仕事に対する考え方は本当に人それぞれだと感じました。

さて、中央高校のみなさんは、将来どのような仕事に就きたいのでしょうか。今はまだはっきりしていないかもしれませんが、みなさんの今の過ごし方や興味関心、頑張りたいこと、なりたい自分、達成したい目標などが、必ずどこかで将来の仕事につながっています。そして、これからの人との出会いや様々な経験によって、どんどんそれは鮮明になるのです。ぜひ、自分の心が動く瞬間を大切に、機会があるたびに「自分はどこで働きたいのか、どう働きたいか、そして、どう生きたいか」を考えてみてほしいと思います。

（204 副担任）